

# 安倍川総合土砂管理計画 概 要 版

平成25年 7月

中部地方整備局

# 安倍川における現状と課題について

静岡市を流れる一級河川「安倍川」では、土砂管理に関して様々な課題が存在

## ○土砂生産・流出領域では…

- ・安倍川に沿って糸魚川-静岡構造線が走り、風化しやすく崩れやすい地質
- ・源流には日本三大崩れのひとつである「大谷崩」を有し、崩壊土砂量は約1億2,000万m<sup>3</sup>



大谷崩

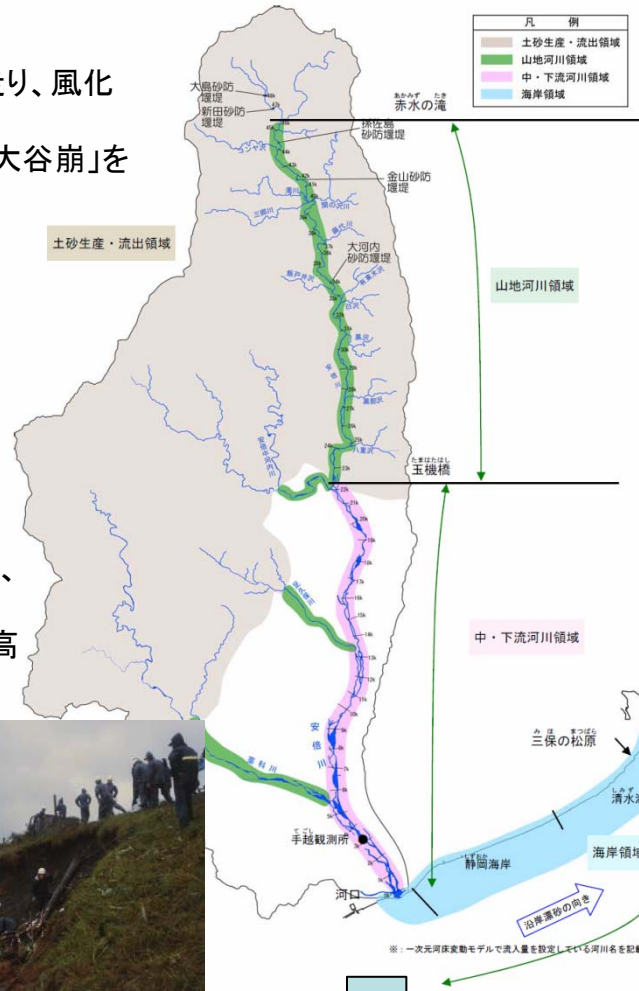
土砂生産・流出領域

## ○中・下流河川領域では…

- ・上流からの土砂流出により河床が上昇し、流下能力が不足
- ・中小洪水においても、偏流により堤防や高水敷が侵食されるおそれあり



H12.9出水による被災状況(左岸11.75k) S57.8出水による被災状況(左岸12k)



## ○山地河川領域では…

- ・砂防堰堤等の直下流において局所的な河床低下



## ○海岸領域では…

- ・安倍川河口の左岸に広がる静岡・清水海岸では海岸侵食が進行



侵食の進む清水海岸  
：羽衣の松



清水海岸の被災状況(H4)

各領域の防災対策を進める上では、領域間で連携した流砂系一貫としての土砂管理が重要

# 安倍川総合土砂管理検討委員会について

## 【委員会設立の目的】

上流域(砂防領域)、河道域および海岸域それぞれの領域において、土砂管理の問題を抱えており、それぞれの領域で対策を施すと、他の領域への新たな土砂管理上の問題を引き起こす要因にもなり得る。

こうした背景を踏まえ、安倍川源流から三保半島に至る流砂系の広大な時空間スケールの土砂動態や土砂問題を実証的なアプローチにより把握し、国土の基盤を構成する一要素である土砂の移動を効果的に調整するための総合土砂管理計画の策定に向けた、今後の基本的方向について助言する。

開催回数	開催日
第1回	H19.3.13
第2回	H19.12.6
第3回	H20.8.7
第4回	H21.7.22
第5回	H22.3.2
第6回	H22.8.11
第7回	H23.1.27
第8回	H24.3.16
第9回	H24.12.12
第10回	H25.3.5



委員会の開催状況

## 【委員】

(会長) 福岡 捷二	中央大学 研究開発機構 教授
大石 哲	神戸大学 自然科学系先端融合研究環都市安全研究センター 教授
佐藤 慎司	東京大学 大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
青木 伸一	大阪大学大学院 工学研究科地球総合工学専攻社会基盤工学部門 教授
水山 高久	京都大学 大学院農学研究科森林科学専攻 教授
土屋 智	静岡大学 農学部 教授
山本 晃一	(財) 河川環境管理財団 河川環境総合研究所長
藤田 光一	国土技術政策総合研究所 河川研究部部長
服部 敦	国土技術政策総合研究所 河川研究部河川研究室長
諏訪 義雄	国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室長
岡本 敦	国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター砂防研究室長
守屋 文雄	静岡県 交通基盤部河川砂防局長
井口 泰行	国土交通省 静岡河川事務所長

# 「安倍川総合土砂管理計画」について

## 【特徴】

1. 健全な流砂系の確立に向けて、主要な地点において**具体的な数値目標(通過土砂量)を有した総合土砂管理計画**。
2. 関係機関と連携して**各領域毎に実施する具体的な事業を検討していくうえでの指針**となるもの。

## 【安倍川流砂系の目指すべき姿】

砂防、河川、海岸の連携のもと各領域の管理・保全施設等を活かして安全性を確保しながら、土砂移動の連続性を考慮し、可能なかぎり自然状態に近い土砂動態によって形成される流砂系を目指す

## 【土砂管理目標】

- ・安倍川流砂系の目指すべき姿を具体化するため、主要地点の通過土砂量で示した土砂管理目標を設定
- ・土砂管理目標は各領域での土砂管理対策を踏まえ、長期的な土砂収支として大洪水から小洪水まで幅広い土砂収支がある中での平均的な値としている

## 【土砂生産・流出領域】

急激な土砂生産、土砂流出による災害を抑制しながら、下流へ安全に移動させる土砂動態を目指す

## 【山地河川領域】

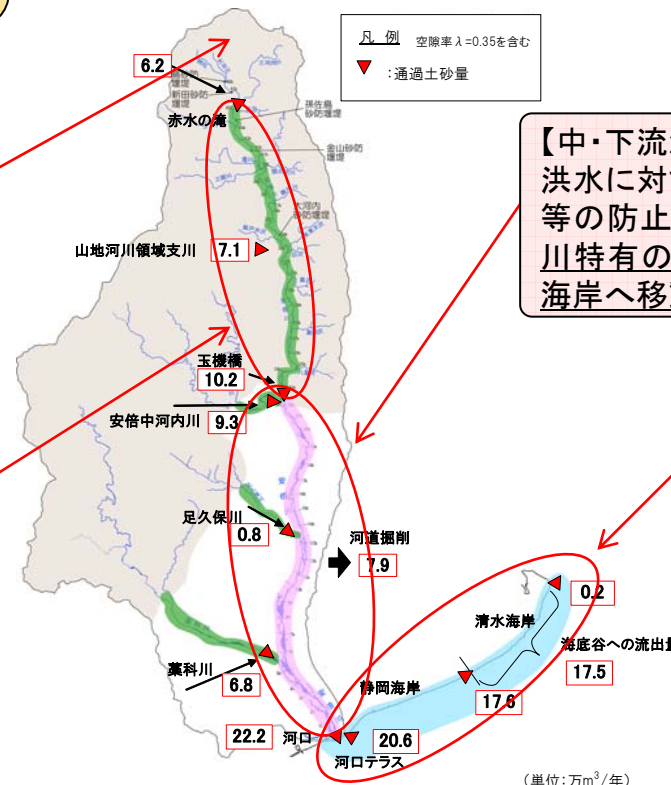
洪水時の急激な土砂の流下を抑制しながら、下流へ安全に移動させる土砂動態を目指す

## 【中・下流河川領域】

洪水に対する安全性を確保(著しい局所洗掘等の防止、流下能力の確保)しながら、安倍川特有の河川環境を維持し、かつ安定的に海岸へ移動させる土砂動態を目指す

## 【海岸領域】

高潮・越波災害に対する安全、三保の松原等の景勝地の保全等の観点から、可能な限り自然の土砂移動により必要な砂浜幅を確保する



健全な流砂系の確立に向けた通過土砂量



# 「安倍川総合土砂管理計画」について

## 【計画対象期間】

土砂動態を評価する期間として、30年間程度を設定。

## 【土砂管理指標】

土砂移動量の変化が地形変化に現れるとの認識のもと、各領域ごとに河床高等の実際に管理可能な土砂管理指標を設定。

領域	領域の課題	管理指標	管理の目安
土砂生産・流出領域	河床低下	平均河床高	本川合流付近の現況河床高
山地河川領域	河床低下	最深河床高	構造物の基礎高
中・下流河川領域	河床上昇	平均河床高	整備計画目標流量を安全に流下させること ができる河床高
	局所洗掘	構造物付近の河床高	護岸等構造物の基礎高
海岸領域	海岸侵食	汀線位置、等深線位置、河口テラス位置	必要砂浜幅

## 【各領域での事業メニュー(案)】

各領域での目標達成のための事業メニュー(案)は以下のとおり。

領域	事業メニュー(案)
土砂生産・流出領域(支川・溪流含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な土砂流出を抑制するための砂防事業を推進</li> <li>・モニタリングにより砂防事業等による土砂動態変化を監視</li> </ul>
山地河川領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂防堰堤の維持管理、河床低下箇所回復</li> <li>・当面はモニタリングにより、砂防堰堤下流等の河床変動状況を監視</li> </ul>
中・下流河川領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削河道 ※で年間20万m<sup>3</sup>の掘削を実施</li> <li>・河道の変化を監視するためのモニタリングを実施</li> <li>・河道中央付近の掘削を実施</li> <li>・掘削河道整備後は維持掘削を実施</li> <li>・大規模出水が発生した際は、緊急掘削を実施</li> <li>・河口テラスの状況を監視するためのモニタリングを実施</li> <li>・堤防防護、河岸防護のための対策を実施</li> </ul> <small>※大規模出水のピーク流量時に堆積が生じても河川整備計画流量を計画高水位以下で流下可能となる河道</small>
海岸領域(静岡・清水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養浜(サンドバイパス、サンドリサイクル)の実施</li> <li>・景観にも配慮した海岸保全施設(離岸堤、突堤)の整備</li> <li>・海岸線の回復過程、回復状態、河口テラスの状況を監視するためのモニタリングを実施</li> </ul>

## 【モニタリング】

今後、「安倍川総合土砂管理計画フォローアップ委員会(仮称)」を設置し、関係機関と情報共有を図りつつ継続的なモニタリングを行うとともに、得られた知見に応じて5～10年を一応のサイクルとして計画を適宜見直す。